

『たすけ』の気まぐれコラム（第五回）

こんにちは『たすけ』です。今回は具体的な『遮熱方法』のお話です。

前回お話した赤外線として放射される(運ばれる)熱ですが、そのもの自体は熱を発生しません。

何らかの物体に当たって初めて熱に変わります。

この赤外線は遮断が簡単で、木の葉1枚でも遮断できてしまいます。真夏の暑い日、木陰で直射を避けた場所では涼しさを感じられることから想像できるでしょう。

要するに**日射遮蔽は、何らかの遮蔽物を開口部に備えれば良い**ということになります。

では、具体的な方法をお話していきましょう。

カーテンがまず頭に浮かびます。特に遮光カーテンであれば十分に効果が期待できそうです。

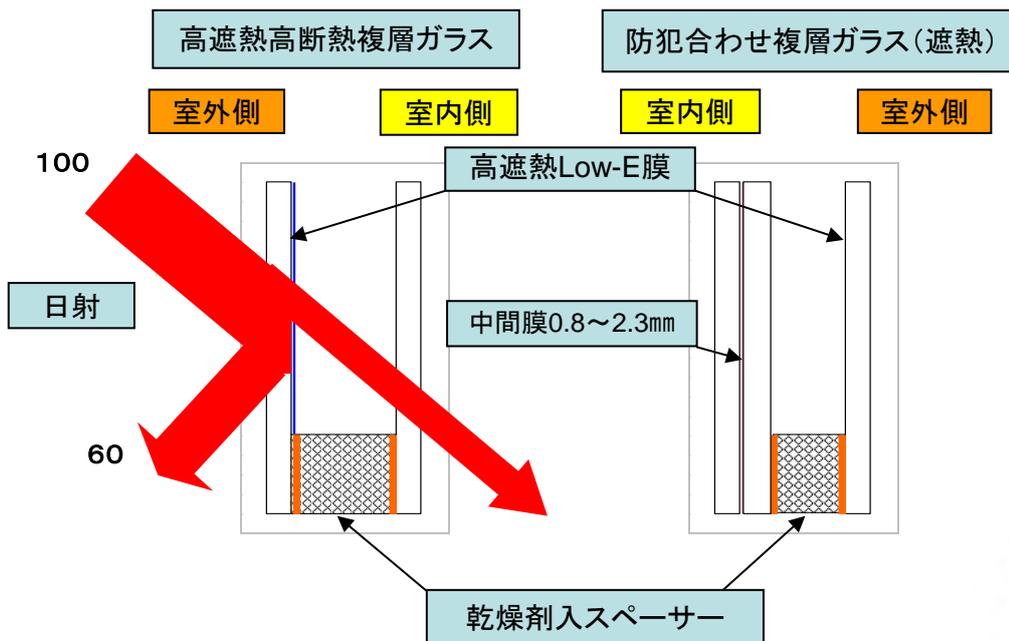
実は、カーテンでは遮熱できるものの、カーテンとサッシ(窓)との間に熱が発生してしまうので十分な遮熱効果とは言えません。

次にガラスでの遮熱を考えてみましょう。ガラス遮熱は『遮熱高断熱Low-E複層ガラス』を

用います。これは太陽からの**近赤外線を60%程カット**し、室内の暖冷房熱(遠赤外線放射)も

室内へ反射させ外部へ逃がさないという優れたものです。北海道などでは、冬の暖房負荷軽減の為に近赤外線を通す『高断熱Low-E複層ガラス』が使用されますが、本州以南では夏の冷房環境を考慮して『遮熱高断熱Low-E複層ガラス』の選択がベストです。

その他には、シャッターや外付ロールスクリーンによる遮熱が考えられます。**遮熱の基本は、遮熱するものに近い側(太陽なら室内側より室外側)で行なう**ことなので、シャッター・外付スクリーンは効果大です。ただし、採光や強風時の使用を考慮すると、ガラス遮熱+αとして考えるの良いと思います。



次回は、その他の遮熱と遮熱リフォームのお話です。お楽しみに。

